

都市再生整備計画(第4回変更)

た な ち く
田名地区

かながわけん さがみはらし
神奈川県 相模原市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	相模原市	地区名	田名地区	面積	777 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標: ゆとりとふれあいの空間の創出による、観光交流拠点の創造と市民生活の向上

目標1: 相模川等の観光資源を活かし、地域振興を図る。

目標2: バスターミナル整備等の交通環境の改善を図り地域の活性化を図る。

目標3: 緑道、公園等の整備によりゆとりある生活環境の増進を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 相模川に架かる高田橋付近は、古くから水運の要所としてだけでなく本市における代表的な観光地として栄えてきたが、近年のモータリゼーションの進展やライフスタイルの多様化等により人口や観光客数が停滞している。
- 相模川の河岸段丘として形成された大規模な平地部においては、市内においても優良な営農地とされてきたが、農業従事者の高齢化等により耕作放棄や遊休化が進み、駐車場や資材置場等の違反転用などが多くみられる。そのため、農業振興地域内を新都市農業推進特区に定め、都市農業の推進を図るとともに市民との交流の場を提供することを予定している。
- 高田橋周辺の水郷田名地区では、昭和初期から地元観光協会主催の納涼花火大会が開催されるなど、県内でも有数の観光地として大規模なイベントを開催するなど観光産業に力を入れている。
- 近年では「相模川自然を愛する会」による美化活動や観光協会が主体となった新たな観光資源の創出など、観光地の魅力向上に向けた気運が高まりつつある。
- 地区内には鉄道駅がなく公共交通機関がバスに限られていることから、朝夕の通勤通学時には、南北の幹線道路である相模原愛川線に交通が集中し、上田名交差点や高田橋を中心に混雑が激しくなっている。
- 市民参加による「県道相模原愛川線TDMワークショップ」における活動が行われるなど、慢性的な渋滞の解消に向けた取り組みが進められている。

課題

高田橋付近の旧市街地の活性化を図りつつ、その周辺地区の農地、工業地、住宅地の均衡ある発展が課題である

- 市内でも有数の観光地である相模川への来街者を周辺の観光スポットへ回遊させることで観光地の機能強化を図る。
- 旧市街地中心が相模川より立地し、鉄道駅から離れているため、唯一の公共交通機関であるバス交通の強化が必要である。
- 農業従事者の高齢化等による農地の荒廃を防ぎ、新たな都市農業を推進するため優良な農地の保全策が必要である。
- 地域の活性化に向けて定住人口の増加を図るため、自然環境の保全等による地域の居住環境の向上が必要である。

将来ビジョン(中長期)

相模川や河岸段丘緑地などを資源とした「みずとみどりのあふれるまち」の創造により、市民と来街者に愛されるまちを目指す

- 相模原市総合計画では、鉄道駅から遠いうえ、公共交通の利便性が低いことや朝夕の交通渋滞、公園の少なさの問題が生じている地区であり、交通環境の利便性の向上と、相模川の魅力づくりややすらぎの場となる公園の整備に努めるとともに、地域の立地特性を生かした産業振興などへの取り組みが位置付けられている。
- 都市計画マスタープランでは、恵まれた自然環境と調和したまちづくりの推進し、水郷田名付近を水の拠点とし、相模川を水の軸、横浜水道道緑道をみどりの軸としての位置付けられている。
- 都市マスタープランでは、国道129号線と県道相模原愛川線を広域交流軸として位置付けるとともに、公共交通網の充実など交通の利便性を高めることが位置付けられている。

目標を定量化する指標

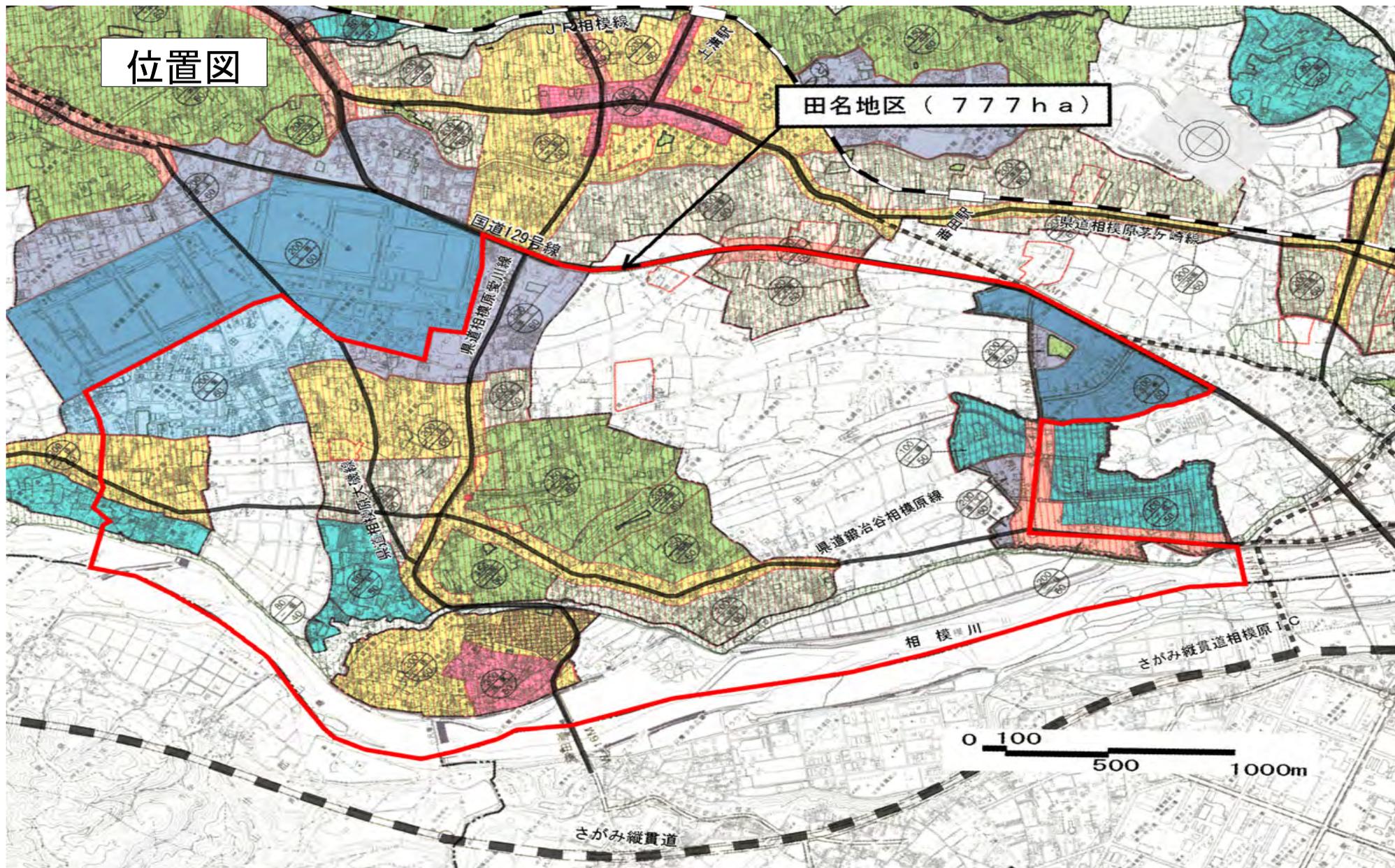
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
1.来訪者数	人/年	地区内で開催されるイベントや観光施設への来訪者の総数	交通利便性と地区の魅力の向上により、観光イベントや観光施設への来訪者の10%増を見込む	762000	16	838000
2.バスの利用率	%	バスターミナルの整備により現在のバス乗降客数を100%とした場合の伸び率	利便性の向上により観光客の増加と市民利用の増加から乗降客数の100%増を見込む。	100	16	200
3.地区内定住人口	人	地区内の人口	交通不便の解消や公園整備などゆとりある住環境の確保により、3%の人口増加を見込む	27660	16	28500
4.地区内の1人あたりの公園面積	m ² /人	公園供用面積/地区内人口	地区内住民のゆとりの確保と観光客の安らぎの場の提供から、地区内人口あたりの公園面積を30%増を見込む。	0.82	16	1.1

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(観光客の誘導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内有数の観光地としての機能を強化するため、従来からの観光資源に加え、新都市農業公園等新たな観光資源の創出をする。 ・市民(住民と観光客)の交流を図るため、地域交流センター等の機能の充実をする。 ・観光資源としての自然環境を保全するため、相模川の美化ボランティアなど市民活動を推進する。 	<p>観光施設整備(関連事業/温泉施設整備、地域協議会、関連事業/望地キャンプ場整備、市)、農業拠点整備(関連事業/新都市農業公園拠点整備、市)、散策路整備(関連事業/新堀用水路、市)、まちづくり活動(関連事業/相模川自然を愛する会、新堀用水を愛する会、地域協議会)、観光イベント(関連事業/相模原納涼花火大会、泳げ鯉のぼり相模川、地域協議会)</p>
<p>整備方針2(交通環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唯一の公共交通機関であるバス交通の複雑化した網をバスターミナルを整備することで単純化し利便性を向上させる。 ・歩道の整備により、安全な歩行空間を確保するとともに歩道網の構築による観光地としての回遊性を高める。 	<p>道路事業(基幹事業/交通広場整備、市道堀之内陽原道路改良、通学路路側帯明色舗装工事、市)、高質空間形成(基幹/公衆トイレ整備(交通広場内)、市)、地域生活基盤施設(基幹/自転車駐車場(交通広場内)、市)、道路事業(関連事業/四ツ谷交差点改良、市)</p>
<p>整備方針3(ゆとりある生活環境の増進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活の向上を図るため、緑道、公園等の自然環境の保全を含めた整備を行う。 ・地域住民の交流の場であり、生涯学習及びふるさとづくりの拠点となる地域交流施設の利便性の向上を図るため、時代のニーズに合った施設に再整備を行う。 	<p>地域創造支援事業(提案事業/田名公民館(図書室)、市)、地域創造支援事業(提案事業/田名公民館(出張所)、市)、高質空間形成(基幹事業/緑道ネットワーク化、市)、公園事業(基幹事業/テクノパイル田名公園、しおだ東山公園、しおだ6号公園、市)、高次都市施設(基幹事業/田名公民館、市)、農業水路整備(関連事業/望地地区地域用水環境整備、市)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市最大の観光資源である相模川を中心とした、観光振興、地域経済の活性化など、田名地域の更なる発展を目指し、観光拠点整備を推進するため、地域の観光協会、自治会、地域代表等で組織された「水郷田名観光開発推進協議会」が平成17年に発足し、地域の手によるまちづくり活動が行われている。 ○地域の憩いのスペースの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源である相模川の雄大な流れを感じられる相模川散策路の整備を行っている。 ・多くの観光客を呼び込むため望地キャンプ場の再整備を行った。 ○新たな拠点の創造 	

位置図

田名地区 (777ha)



田名地区(神奈川県相模原市) 整備方針概要図

目標	ゆとりとふれあいの空間の創出による、観光交流拠点の創造と市民生活の向上	代表的な指標	来訪者数 (人/年)	762,000 (16年度)	→	838,000 (22年度)
			バスの利用率 %	100 (16年度)	→	200 (22年度)
			地区内定住人口 (人)	27,660 (16年度)	→	28,500 (22年度)
			地区内の1人あたりの公園面 (㎡/人)	0.82 (16年度)	→	1.10 (22年度)

